



加藤久子 著

スキルアップ！ スケーリングテクニック ベーシックからアドバンスまで

東京都渋谷区・原宿デンタルオフィス
山崎長郎（歯科医師）



A4 判変 / 148 頁
定価 4,410 円
(本体 4,200 円 + 税 5%)
医歯薬出版刊
(2011 年 9 月発行)

歯科衛生士に関する書籍は、過去において私自身読んだことがあまりなかったが、今回加藤久子さんが満を持して出版したとのことなので、当院の歯科衛生士とともに熟読させていただいた。

最初に感じたことは、写真が多く、図説による解説が非常にわかりやすい。特にスケーリングテクニックが動画のように細かく、連続写真で表現されている。それゆえ、どのような手順でどのようにスケーラーを動かしたらいいのかが一目瞭然で、各部位ごとに見せてくれている。また、従来あまり見られなかった、誤っている例を数多く記載し、各々の歯科衛生士の癖や改善すべきポイントを指摘しているため、読者自身の修正する事項が明確になるだろう。それはまさに、自己流では長時間のスケーリング、および的確な除石・ルートプレーニングが困難であることを示唆している。また、部位特異性の解剖と組織から、ポジショニング、ブローピング、エクスプローリング、スケーラーの操作まで、“本

当の基本”を学ぶことができる。それに加え、難易度の高いケースについてはその攻略方法を、スケーリング前の知っておくべき重要事項、手順、ポイントとしてまとめられていて明確で非常にわかりやすい。これらを総合的におさえることにより、ベテラン歯科衛生士にも新人の歯科衛生士にも、経験年数を問わず有益な書籍となりうる。

何にしましても、今後日本の歯科界のトリートメント・モデルは「キュア」から「ケア」に移行することは間違いないと思われる。それゆえ歯科衛生士の役割は、以前よりも増してニーズが高まり、重要となってくるであろう。そんな時期、この書籍が上梓されたことはタイムリーであり、また必然性があったのであろう。この書籍がすべての歯科衛生士のバイブルとなることを祈っている。

実は、私自身約 30 年くらい前だと思うが、歯科医師としてははじめて DH アンナ・パティソンのコースを受講した。そのときの実感として、歯科の治療のなかでもっとも難しい治療は、スケーリング、ルートプレーニングであることを認識した。この困難を極める分野を担当する歯科衛生士の役割は非常にたいへんで責任のあるものであるゆえ、ぜひ頑張してほしいものである。

また、口腔衛生管理が数十年の間に飛躍的に向上したのは、歯科医師の歯周に対する関心の高さと歯科衛生士の日常におけるたゆまぬ努力の賜物であると感じている。今後、益々の向上を願っている。